

こづもりいけ 小津森池



寛永十年(1633年)に亀越池が作られると岡田も盛んに新田が開発されるようになり、小津森池や打越下池などの新池の築造を促しました。

小津森池は寛文十二年に高松藩初代藩主頼重の時家臣矢延平六(飯山町の仁池や大窪池も築造)によって初めて築かれました。その後何度かの堤防決壊や天災による飢饉にあえぎながら新田開発が進み、人口増とあいまって再び水不足を訴えるようになり、文化七年(1810年)第1回の嵩上げ工事が行われ、貯水量も138,000 m^3 となりました。

この時工事に携わったのが当時鵜足郡の大庄屋であった岡田上の木村又左衛門以下の村役人であったと言われています。

その後も度重なる干ばつやユル替えがあり明治二十八年(1895年)第2回目の大規模な嵩上げ工事が行われました。工事は当時亀越池の築造に際し長炭村から移転してきた岡田東の土岐家の当主土岐六蔵の献身的な努力によってなされました。

貯水量は545,000 m^3 となりひろく岡田東・栗熊西・上法勲寺の農地を潤す大池として今も人々から大切に守り継がれています。